

神奈川大学
野球リーグ

就任1年 母校で快挙

14日に横浜スタジアムで行われた神奈川大学野球1部リーグで、14年ぶりの春秋連覇を果たした神奈川大。就任1年目での快挙を達成し、胸上げされた岸川雄二監督(45)は「勝利にふさわしい人間に成長してくれた選手に感謝しがあります」と万感の思いに浸った。

自身は、神大時代にリーグ史に残る大記録を残した強打者だ。佐賀学園高から入学し、1995年春にシーズン最多の8本塁打、通算22本塁打を引っさげて、ドラフト4位でプロ野球西武に入団したが、故障もあって1軍出場を果たすことなく2000年に引退した。

「野球のことなんてもう考えたくもなかった」と、引退後の3年間、地元・佐賀の建設会社で営業マンとして勤務した。「必死に頭を下げる日々で、感謝することの大切さを学んだ」という。

「成長に感謝」連覇

大監督 岸川雄二



就任1年目で神奈川大をリーグ連覇に導き、ナインに胸上げされる岸川監督
—横浜スタジアム

05年からは大分に開校したスポーツの専門学校で野球部の監督を務めていた。スカウトで熊本県の球場に足を運んだ際に、神大の古川祐一前監督(49)に遭遇。「指導者として母校に戻らないか」と誘われたのが転機となった。

14年から神大でコーチとなり、10月1日から監督就任。自身がスカウトしたエース中

野貴仁投手(4年)や、富岡泰宏選手(3年)らが主力に成長し、連覇を成し遂げた。

6月の全日本大学野球選手権では初戦敗退。「あの悔しさからこの秋はスタートしたリーグ連覇では終わらず、今度は神宮で勝ちたい」。29日から始まる関東地区選手権で、再び聖地神宮への切符をつかみにいく。(矢部 真心)